二〇二四年度　第一回　入学試験問題

# 適性検査Ⅰ

（三鷹型①）

注意

1 問題は **1** のみで、**4ページ**にわたって印刷してあります。
2 試験時間は**四十五分**です。
3 声を出して読んではいけません。
4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、**問題用紙と解答用紙を提出してください。**
5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書いてください。
6 **受験番号**を解答用紙の決められたらんに記入してください。

受験番号

佼成学園女子中学校

**1**　次の〔詩〕と〔文章〕を読み、あとの問題に答えなさい。
（※印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。）

〔詩〕

名づけられた葉　　新川和江

ポプラの木には　ポプラの葉
何千何万芽をふいて
緑の小さな手をひろげ
いっしんにひらひらさせても
ひとつひとつのてのひらに
載せられる名はみな同じ〈ポプラの葉〉

わたしも
いちまいの葉にすぎないけれど
あつい血の樹液をもつ
にんげんの歴史の幹から分かれた小枝に
不安げにしがみついた
おさない葉っぱにすぎないけれど
わたしは呼ばれる
わたしだけの名で　朝に夕に
だからわたし　考えなければならない
誰のまねでもない
葉脈の走らせ方を　刻みのいれ方を
せいいっぱい緑をかがやかせて
うつくしく散る法を
名づけられた葉なのだから　考えなければならない
どんなに風がつよくとも

〔文章〕

商品を販売するマーケティングの世界では、「ニッチ」という言葉はすき間にある小さなマーケットの意味で使われます。

たとえば誰もが買うような人気の商品があります。その一方で、一部の※マニアックな人しか買わないような※レアな商品があったとします。レアな商品は、たくさんは売れませんが、確実に買ってくれる人がいます。このような大きな市場のすき間に存在するような商品を「ニッチ」と呼びます。

生物学でいう「ニッチ」は、もともとはナンバー1になれる場所のことですから、小さくなければいけないということはありません。

小さなニッチもありますが、大きなニッチもあります。

しかし、ニッチはナンバー1になれる場所です。大きなニッチでナンバー1になり続けることは大変です。

たとえば陸上競技で考えてみましょう。

世界で一番足が速いというニッチには、世界でただ一人の人しかなることができません。しかも、すべてのレースに勝ち続けることは大変です。

それでは、少し範囲を狭めてみるとどうでしょう。

日本一足が速いというニッチにすれば、世界一よりは簡単です。学校で一番とか、クラスで一番というように範囲を狭めていけば一番になりやすくなります。

種目を絞るという方法もあります。一〇〇メートル走で一番とか、二〇〇メートル走で一番、一五〇〇メートル走というように種目を分けていけば、一番になりやすくなります。

しかし、そうは言ってもそんな方法でも一番になることは、大変です。

「速く走る」という競技に参加する人は大勢います。そんな中で一位になるのは大変なのです。

もっともっとニッチを小さくしてみましょう。

たとえば、運動会では※バラエティに富んださまざまな種目があります。

障害物競争が一番速いというのはどうでしょう。網をくぐるのが一番だとか、平均台を渡るのが一番だというようにもっと分けてみてもいいでしょう。

あるいは、ぶら下がったパンを食べるパン食い競争やスプーンでボールを運ぶスプーンレースもあります。お題に沿ったものを借りてくる借り物競争というものもあります。運動会は速く走る以外にも、さまざまなナンバー1が生まれるように工夫されています。

じつは、自然界の生き物もこのように条件を細かく設定することによってナンバー1になれるニッチを確保しています。

翻ってみると、すべての生物がこの地球上で、小さなニッチを分け合っているということもできるでしょう。

（中略）

得意なことや、好きなことはあるけれど、ナンバー1になれるほどの自信がない。

そんなこともありますよね。

生物も同じです。そんなときの生物たちの戦略が「※ニッチシフト」と呼ばれるものです。

生物は、ナンバー1になれる※オンリー1のポジションを持っています。しかし、ニッチは永遠ではありません。

すべての生物がナンバー1になれるポジションを探しているのですから、他の生物とかぶってしまうことがあります。あるいは時代が変化し、環境が変わるとナンバー1でいられないときもあります。

そんなとき、生物たちは自分の得意なことを大切にしながら、その得意なことの周辺で、ナンバー1になれる※フィールドを作れないか探していきます。

ハシブトガラスは、もともとは深い森に棲んでいました。ところが現在、住宅地や都会の真ん中でゴミを漁っています。複雑な森の環境

の中を飛び回り、エサを探すという得意を活かして、ハシブトガラスは都会という複雑な環境を住処にしているのです。

田んぼに暮らすカブトエビという生き物は、元々は砂漠に暮らす生き物です。砂漠はつかの間の雨が降り、水たまりを作りますが、やがて水たまりは干上がってしまいます。カブトエビは、このわずかにできた水たまりの中で、卵から孵化し、一気に成長を遂げて卵を産むというスピードを得意としています。田んぼは、豊かな水をたたえる環境ですが、夏になるとイネの生育を調整するために水を抜きます。田んぼが干上がってしまうとこのとき、多くの水の中の生物は、死んでしまいます。ところが、カブトエビはそれまでに卵を残し、生き残っているのです。

イワナは、きれいな川にすむ魚です。ところが、ヤマメという魚がいると、イワナは上流部の方に逃げてしまいます。ヤマメはイワナよりも強い魚です。しかし、イワナには「寒さに強い」という強みがあります。そのため、ヤマメが力を発揮できない水の冷たい上流部に移り棲むのです。

※軸足は動かさずにしっかりと立ちながら、もう片方の足で立てそうな場所を探していくイメージです。こうして、「ナンバー1になれるオンリー1のポジション」を探し続けます。そして、「ナンバー1になれるオンリー1のポジション」を変えていくのです。

つまり、ずらしながらニッチを、探していくとも言えるでしょう。

皆さんの得意なこと、好きなことがナンバー1になれることではないかもしれません。しかし、皆さんの得意なこと、好きなことの近くに、それはあります。それを探し続けるのです。

自分の好きなことではあるけれど、他の人に勝てないということもあるでしょう。

たとえば、サッカーが好きでたまらないけれど、他の人よりうまくない。歴史が好きだけれど、歴史のテストでは良い点を取れない。そんなときは、「好きなこと」を軸にして、少しだけずらしてみます。

東進ハイスクールの林修先生は「大した努力をしなくても勝てる場所で、誰よりも努力をしなさい」と言います。まさに、これはナンバー1になれるオンリー1のポジションを見つける近道です。

もちろん、私たちは二一世紀を生きる人間ですから、単に自分が生き残るためにニッチを見つけるというだけでは、あまりに虚しいと思うことでしょう。

その通りです。

「好きなこと」、「得意なこと」、そして「人から求められること」、そんなニッチのヒントを探し当ててみましょう。そして、「小さなチャレンジ」を繰り返すのです。

「得意なこともない。好きなこともわからない。

それでも、ナンバー1になれるニッチを探すにはどうすればいいのか」

そう思う人もいることでしょう。

じつは、ナンバー1になれるオンリー1のポジションを探す、とっ

ておきの方法があります。

それが「自分らしさ」です。

「自分らしさ」というフィールドを勝手に作ってしまえば、自分がナンバー1に決まっています。自分らしさというフィールドは、オンリー1に決まっています。

（稲垣栄洋（いながきひでひろ）『はずれ者が進化をつくる』）

〔注〕

※マニアック…あることに異常に熱中すること。

※レア…めずらしいこと。

※バラエティ…多種多様であること。

※ニッチシフト…生存に適した場所を変えること。

※オンリー1…ただ一つ。

※フィールド…領域。

※軸足…活動の中心。

〔問題1〕「名づけられた葉」という詩にこめられた作者の思いを、〔文章〕の内容を参考にして六十字以内で説明しなさい。

〔問題2〕〔文章〕中の陸上競技や生き物の話は、どのようなことの例として挙げられているのですか。「～していること。」に続くように、文中から三十字以上三十五字以内でぬき出して答えなさい。

〔問題3〕〔文章〕中の自分らしさというフィールドは、オンリー1に決まっていますということについて、あなたはどのように考えますか。また、それをふまえ、これからどのようにしていきたいと考えますか。具体例を挙げながら三百六十字以上四百字以内で書きなさい。

〈きまり〉

○題名は書きません。

○最初の行から書き始めます。

○段落を設けず、一ますめから書きなさい。

○、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます。

○。と」が続く場合には、同じますめに書きます。この場合、。」で一字と数えます。